

- ・今年は U13 と U14 で2つの会場に分かれて開催
- ・内田は U13 の時之栖会場に参加。以下は U13 時之栖会場の報告。(U14 はヴェルジ)

【期 間】 2022年 11月 24日(木)18時～11月 27日(日)12時半

【会 場】 ○宿舎：帝人アカデミー富士

○グラウンド：時之栖スポーツセンター 裾野グラウンド

【参加者】 ★JFA インストラクター 5名

名木 利幸 氏 (研修会チーフ・高知)

柳元 良文 氏 (北海道)

山田 修平 氏 (愛知)

藤ヶ崎 敦 氏 (茨城)

大歳 和法 氏 (兵庫)

★Administrator

多田 浩太(JFA)

★審判員 9名(3級 8名、2級 1名)

野呂 哲成氏(北海道)

西坂 太貴氏(東北)

小菅 竜明氏(関東)

井上なおや氏(北信越)

三輪 舞輝氏(東海)

池田 翔 氏(関西)

藤本 歩 氏(中国)

佐々木 要氏(四国)

有馬 匠貴氏(九州)

★地域指導者 5名

志村 修一 氏 (関東)

飯井 巧 氏 (北信越)

望月 雄介 氏 (東海)

深田 修也 氏 (関西)

内田 利幸 (中国)

《WEB での事前打ち合わせ》

- ・ 11月 2日(水) 20時から、WEB 会議(zoom)。

☆研修テーマ

審判員：ユース審判員以降身につけてきたスキルに磨きをかけ、
次のステップに向けて取り組む課題を確認する。

☆指導者：審判員の課題を引き出す手法について考え、実践力を高める。



(1) スケジュール概要及び内容

《研修 1 日 目 (24 日)》

19:30 講義①大会参加に当たり目標等の確認 担当：名木氏

明日からの試合に向けて審判員に以下のことが伝えられた。

1人審で R サイド、AR サイド問わず

1.スローインの判定 どうやって

2.オフサイドの判断 どうやって

3.争点から 10m とにかく走る

これらを考えてレフェリングをしてほしい。



20:10 講義② テーマ：「成長を促す働きかけを考える」 担当：山田氏

OZ世代の特徴

これから指導の対象となる「審判員」の特性

Z世代 1990年代後半～2012年ごろに生まれた世代 9歳から21歳くらい

○デジタルネイティブ

- ・高い情報収集力
- ・情報を得て考える
- ・ネットでつながれる
- ・淡白な会話

○自己承認

- ・自己発信
- ・顕著な承認欲求

『いいね』

○多様性の受容

- ・排除を望まない
- ・カーストよりサークル
- ・競争意識の低下

◎『成長を促す効果的な働きかけ』を考えよう！

《研修2日目（25日）》

担当試合(番号は通し番号)

① 9時半 kick off 予選リーグ アカデミー福島-四国 50分ゲーム 天然芝

主審：池田氏 補助審判：小菅氏 JFA アセッサー：藤ヶ崎氏

② 16時 kick off 予選リーグ 東海-アカデミー福島 50分ゲーム 人工芝

主審：小菅氏 補助審判：佐々木氏 JFA アセッサー：大歳氏

19:30 講義③ テーマ：「審判と技術の協調」 担当 星原氏

JFA 技術委員会サブダイレクターの星原氏より技術委員会の方向性や審判との協調についてのお話を聞いた。

《研修3日目（26日）》

担当試合(番号は通し番号)

③ 9時半 kick off 予選リーグ 東北-関西 50分ゲーム 天然芝

主審：藤本氏 補助審判：佐々木氏 JFA アセッサー：山田氏

④ 13時 kick off 予選リーグ 九州-関西 50分ゲーム 天然芝

主審：西坂氏 補助審判：池田氏 JFA アセッサー：柳元氏

19:30 講義④ テーマ：「地域に広めたい指導実践について」

担当：藤ヶ崎氏

○良いコーチングをするためには

- ・ニーズを理解しそれを成功させるために協力すること。
- ・聞き役に徹する。聞いているというメッセージを発信し続ける。『うなずき』『あいづち』
- ・質問例 良かったところは？楽しかった？どんなことが？その時どうだった？

○○分のFKを与えた事象について何を見ましたか？



難しい質問の前に答えやすい質問から。

座る位置：

真正面を避ける。メモを見られないように。(メモの置き場に気をつける)

振り返りの時に審判員の目の前でメモをとるのは...

《研修 4 日目 (27 日)》

担当試合(番号は通し番号)

⑤8時半 kick off 順位決定戦 関東-関西 60分ゲーム 天然芝

前半 主審：野呂氏 補助審判：佐々木氏 JFA アセッサー：藤ヶ崎氏

後半 主審：佐々木氏 補助審判：野呂氏 JFA アセッサー：藤ヶ崎氏

(前後半で主審と副審の入れ換え)



(2)5つの担当試合後の振り返りについて内田へのJFAアセッサーの方からのコメント

①の試合の振り返りで

○手順よく最初に確認しなくてはいけないことを確認していた(懲戒罰など)

・審判員が自分で気づいたことを深堀する。

例)良くなかったこと→何が良くなかったか→見えなかったこと？

「どこに走ったらいいの」等逆に質問をする。

・振り返りのプランを考える

・伝えなきゃいけないことは伝えないといけない。

・最初は傾聴していたが、ボードを出したところからASが沢山話していた。ボードを出してもASが説明するのではなく、レフェリーにボードを使ってもらい説明してもらう。

②の試合の振り返りで

・考えさせる。

例)自分で見るとどうやって？どこまで許す、ルーズにする？言われてからでも？

・このレフェリーは良く走っていた。でも近すぎる。ここまで入ったら周りが見えない。トップスピードで走ると視野が狭くなる。

・首を振るのはポジションが悪いから。

・オフサイドは自信がないもの、微妙なものは吹かない。

何を見るか→両方みる 出所、受け手、DFの位置

・アイデアは既存の考え(ピース)の新しい組み合わせで生まれる。ピースがないor少なければアイデアは生まれない。→伝えたいことは何か。何を伝えるか。今日の場合は動きとポジショニング？

③の試合の振り返りで

・振り返りは安心マインドから入る。

例)ゲームは無事に終わった。全力で走って頑張っていた。合格ゲームだよ。

・沢山しゃべるレフェリーに「今日どうだった」と聞くと時間がかかりピントがぼけてしまうので最初からテーマをしぼる。

例)後半のオフサイドの場面はどうだった？

あのADV場面はどうだった？

・テーマ以外のことは考えさせるのではなく教える(伝える)でもいい。



- ・走ることを意識して走りすぎて前に出る。→視野が狭くなる。
見るのが大切。いかに見るか。走りすぎて近づきすぎるリスクがある。
- ・いい能力(走力)をいつ使うか
- ・リスペクト：振り返り等で選手のことをつい「こいつ」「あいつ」と言ってしまう。さりげなく直してあげる。

④の試合の振り返りで

- ・座り方 斜め or 横がいい。
- ・感想(どうだった)を言ってもらってから→おうむ返し→他には というように少しでも返した方が良い
- ・次回頑張ることを聞いたとき オウム返しで確認してあげる。
- ・今日の審判員は得点後のシグナルなど、もう少し分かりやすい方が良かった。

⑤の試合の前半の振り返りで

- ・最後の「何か困ったことは？」という AS の問いで初めてで言いたいことを言ったように思う。→最初は人間関係が作れてないから言えない。
導入大事 安心して話せる雰囲気を作る。
- ・AS から「何か困ったことはなかったですか？」→R から「判定についてはどうでしたか？」
この会話からレフェリーは判定について不安に思っている。
気持ちの中の一番の不安を聞く。不安なこと、気になるプレー等。
たぶん後半開始早々のファウルが気になっていたと思う。心の中で警告が必要だったかも と思っている。そういうときは
「マネジメントしないといけないプレーなかった？」等という聞き方も良い。

- ・次に生かせることを聞く。

⑤の試合の後半の振り返りで

- ・導入良かった。気持ちに寄りそっていた。
どう言ったら相手がオープンマインドになるか。本音を言ってくれるか。
- ・思ったこと、やれなかったこと、これらを言ってもらって気づいてもらう。
- ・FK のマネジメントでサッカー観を評価できる。
FP ならどうやりたい？ さっきの終了間際のあの位置での FK は声かけで OK
多少位置が違って O ボールが動いていたら X

(3)終わりに

今回の研修は、「審判員の課題を見つけそれを引き出し気づいてもらう。そしてその改善方法をみつけ、次の目標を決める」その手助けをする、という目的でした。JFA インストラクターの皆さんから『振り返りのポイント』など色々教えて頂きました。また各地域の審判員・地域インストラクターの方々と一緒に学ぶ機会を得られ、とても素晴らしい経験ができました。このような研修の場を与えて頂いた中国サッカー協会の方々を始め関係者の方々に改めて感謝し、学んだことを地域に還元したいと思います。ありがとうございました。

